

伐木技術普及研修の実施について

1 はじめに

令和3年の岩手県内における林業死亡労働災害は4名(10月末時点)、うちチェーンソー作業に起因する事故が3件となっており、安全に配慮した伐木作業の実施が何よりも大切です。

釜石地域では、チェーンソー作業の技術向上による労働災害の未然防止を目的として、11月11日(木)に、釜石市平田地内において伐木技術普及研修を開催しました。

当日は、管内の2事業体から5名が参加し、岩手県伐木技術指導員の細川稔氏(気仙地方森林組合)を講師に、実技を踏まえた研修を行いました。

2 研修内容

(1) チェーンソー及び安全装備のメンテナンス

午前、講師から、チェーンソーの切削の仕組みや安全な伐倒技術、安全装備のチェック項目について講義が行われた後、研修生のチェーンソーの整備状況を確認しながら、メンテナンスについてアドバイスが行われました。



また、チェーンソーの目立て方法について講義が行われ、研修生は、目立て前後のチェーンソーの切れ味を実際に確かめながら、刃の研ぎ方について指導を受けました。

(2) 間伐木の伐採、かかり木処理(実習)

午後は、林内に移動し、講師の模範伐倒の後、研修生一人ずつ伐倒作業を行いながら、細やかに指導が行われました。

混み合った林内であったことから、かかり木が多く発生しましたが、フェリングレバーを使いながら、安全なかかり木の外し方についても研修することができました。



3 終わりに

実習終了後、振り返りを行い、研修生から「普段見比べることができない他人の装備、動作を目にすることで、自分のことを顧みることができた。」「他事業体の人と交流を深められて有意義だった。」という感想が出され、実り多い研修になりました。

研修生には、これからも安全な伐倒技術を現場で実践していただき、事故なく充実した仕事が行われることを願っています。